



◆ 一般投稿作品 ◆ 岡崎桜雲 選

雨あがり竹一本に並ぶ亀 五百蔵利美
 梅雨晴れやポケット手で行く繁華街 原 茂
 代掻きやさざ波立ちて走りおり 伊藤 清子
 参道の出店懐かししなね祭 利根 弘子
 弾かれて蛍袋は眠りたし 森本 幸美
 空の色映りてゐたる金魚玉 山崎 貴子
 年重ねからだおとろえ春を待つ 荒木 景子
 稲刈りの小指にのこる遠きぎす 中村 定子
 孫の刈りし梨園の草匂い立つ 畠山 千江
 舟虫の祠に集ふ女房たち 明石 菲生
 日の盛りなんとだるげに蝉の啼き はずな
 七夕や願いは一つ星空に 坂元 道子
 のら猫が庭を横切る端居かな 宮地 美代
 琉球の味がなつかし母の味 東 月
 長靴の先まで痛し霜の朝 溝渕 龍泉
 花見には行かぬが十分車窓から 吉川 恵樹
 真白の未だ際立つ立浪草 小松 美鶴
 急ブレーキ兎跳び出る春の宵 秋山 英身

羽交い締め相手選ばず葛若葉 茂野 光正
 筍の煮物も出来て夢さめる 原 恭子
 母今日も父の遺せし松手入 大場比奈子
 日焼け子のブルバグの重きかな 秋 星
 孫乗せし機影送りて初燕 井上 佐和

◆ かほく俳句会 ◆

水馬にあめんぼ乗りて水樂し 乾 真紀子
 夕闇に里のほたるの便り待つ 岡本 敏子
 色褪せし形見の日傘母似の子 小松 昇
 シテの声神苑に沁む緑の夜 佐竹 洋子
 梅雨寒や痛む身体のひとつこ 杉山 春萌
 梅雨鮫ごぼりと道の横の溝 津田吾燈人
 天向ひて大往生の油虫 野村 里史
 翠嵐や吸ひ込まれ行く郵便車 古川 信子
 食卓へ挿す一輪の夏椿 前田 智
 父の日といふ日曜日ひとり酌む 宮崎ただし
 卒寿とていまだ農婦や藪を挿す 宗石 愛喜
 人生の見えぬ噴水じつと見る 森本 之子
 紫陽花の哀しき青を受け取りぬ 山崎かずみ
 楊梅すつば牧野書を読み返す 山崎 鈴子
 庭隅にか細く揺れる芥子の花 山中 明石

香美市アートアニュアル

vol.11 -新しい地平をひらく-

8月2日(水)～8月27日(日)

休館日/毎週月曜日

【関連企画】

①出品作家によるシンポジウム
8月27日(日) 14時～

②館長または学芸員による作品解説(展示室)
会期中毎週日曜14時～

香美市立美術館

アートの窓

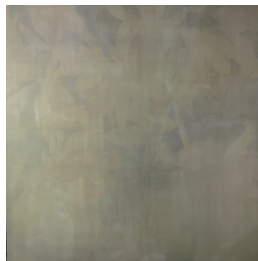


香美市アートアニュアルは、当館独自の展覧会です。高知に縁のある若手作家を紹介する目的で、今回は7名の作家を取り上げています。花織は日本画の画材を使って抽象的な表現をし、田内泰生は、洋画の領域で現代的な持ち味の作品を制作しています。樋谷玲於は絵画や陶芸を制作し、永野未来はふるさと

高知の風景を美しく描いています。藤原はなはプロの陶芸家として独自の作風を確立しつつあり、前田怜穂は絵画において写真表現に優れていて、山中美佳は、瑞々しい若さのある絵画を制作しています。このように、7名それぞれが今を生きる感覚を大切に、新しい表現に挑戦しています。彼らの努力の先に新しい地平が切り開かれることを期待しています。ぜひ次世代のアーティストの力作を覗いていただきたいと思えます。(館長・都築房子)



▲ 前田怜穂「待つ」



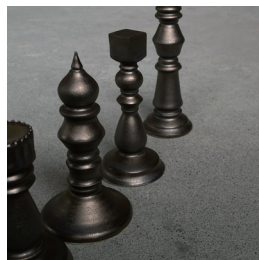
▲ 花織「光を向く」



▲ 永野未来「奇跡の川」



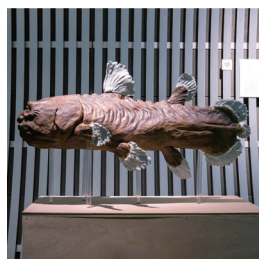
▲ 山中美佳「ふるさとの風」



▲ 藤原はな「Order」



▲ 田内泰生「Tunsung herol」



▲ 樋谷玲於「退化II」

香美市森林環境税活用事業

申し込みいただいた方からの投稿を募集しています！！

かみんぐBABY木のギフト

『木のギフト』お便り紹介

はるちゃん

とさろくろくこーぼーさんから商品(2023年「卯」
 ○○アニマル-ウサギさん-)をいただきました。
 触り心地がスベスベしており、滑らかで肌馴染
 みがとてもよく、可愛らしい見た目も気に入ら
 ました！まだ子どもは生後4カ月のため、遊んだり
 は出来ませんが、早い段階からそばに置いておき、
 木に触れさせていきたいと思えます。



※香美市から木のギフトを受け取られた皆さんからのご感想、写真を募集しています。投稿者の氏名、写真、写真に映っている方の名前(ペンネームで構いません)、感想を、下記のメールアドレスまでお送りください。

香美市の赤ちゃんに『木のギフト』をプレゼントしています。詳しくは、新生児訪問の際にお渡しするパンフレットまたは、香美市ホームページ内の特設ページをご覧ください。

【問い合わせ先】農林課林政班 ☎52-9283 ✉rinsei@city.kami.lg.jp



今月のキラリ

広報委員会

琉球の味がなつかし母の味

「琉球」と漢字で書かれた場合、沖縄の別称と考えられますが、この場合は蓮芋、土佐では「りゅうきゅう」の事と解釈しました。あの瑞々しい緑色とシャキシャキした食感、煮物、酢物で食べる。当地ではナイラゲや鮎で酢もみ、味噌汁の具に入れたりする。作者は「りゅうきゅう」が店頭に並ぶ頃になると、お母さんとその味を懐かしく思いだしている。季節感豊かな一句。(季語：りゅうきゅう(夏))

羽交い締め相手選ばず葛若葉

葛は春から初夏にかけて野山に這い広がる。また茎は蔓状に十メートル以上も伸びる。その茎が色々な物からみつくさまを「羽交い締め相手選ばず」と表現された。写生が的確で、表現が面白く楽しい一句。(季語：葛若葉(春))

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。住所、氏名、電話番号を明記してください。

▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。

▼投稿先 総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌係」〒782-8501(住所記載不要) FAX 53・5958